(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第5629132号
(P5629132)

(45)発行日　平成26年11月19日(2014.11.19)　(24)登録日　平成26年10月10日(2014.10.10)

(51)Int.Cl.　F I
E04B 1/348 (2006.01)　E04B 1/348 L
E04B 1/348 E
E04B 1/348 G

請求項の数 4　(全 11 頁)

(21)出願番号　特願2010-133490 (P2010-133490)
(22)出願日　平成22年6月11日 (2010.6.11)
(65)公開番号　特開2011-256648 (P2011-256648A)
(43)公開日　平成23年12月22日 (2011.12.22)
審査請求日　平成25年3月26日 (2013.3.26)

(73)特許権者　307042385
ミサワホーム株式会社
東京都新宿区西新宿二丁目４番１号
(74)代理人　100090033
弁理士　荒船　博司
(72)発明者　吉崎　遷
東京都杉並区高井戸東２丁目４番５号　ミサワホーム株式会社内

審査官　湊　和也

最終頁に続く

(54)【発明の名称】ユニット式建物

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
大型の傾斜屋根を有するユニット式建物であって、
上階部分に、上面に傾斜面を有する台形箱状の台形ユニットが前記傾斜面を外側に向けて設けられるとともに、矩形箱状の標準ユニットが前記台形ユニットに後方から隣接して設けられ、
下階部分に設けられている標準ユニットのうち外側に位置する標準ユニットが前記台形ユニットより外側に位置するようにして設けられ、
前記傾斜屋根が、上階部分に設けられた前記標準ユニット上から下階部分の外側に設けられた前記標準ユニット上にかけて、前記台形ユニットの傾斜面に沿って設けられ、
前記傾斜屋根の上端部が上階部分に設けられた前記標準ユニット上に軸組みすることによって形成された上軸組部によって支持され、
前記傾斜屋根の下端部が下階部分の外側に設けられた前記標準ユニット上に軸組みすることによって形成された下軸組部によって支持されており、
前記上軸組部および下軸組部は、それぞれ前記傾斜屋根の傾斜方向と平行に設けられて、当該傾斜屋根を下方から支持する傾斜軸部材と、この傾斜軸部材の上端部に連結された第１鉛直軸部材とを備え、
前記第１鉛直軸部材は、その下方に位置する前記標準ユニットの柱の上端部に立設固定されることによって支持されており、
前記上軸組部の前記傾斜軸部材と前記第１鉛直軸部材との連結部どうしは、連結材によ

って連結されており、
前記下軸組部の前記傾斜軸部材の下端部は、その下方に位置する前記標準ユニットの柱の上端部によって支持されていることを特徴とするユニット式建物。
【請求項２】
請求項１に記載のユニット式建物において、
前記上軸組部は、前記傾斜軸部材の下端部に連結された第２鉛直軸部材を備え、
前記第２鉛直軸部材が、その下方に位置する前記標準ユニットによって支持されていることを特徴とするユニット式建物。
【請求項３】
請求項１または２に記載のユニット式建物において、
前記下軸組部の前記傾斜軸部材の下端部は、その下方に位置する前記標準ユニットの柱の上端部に固定部材を介して固定され、
前記傾斜屋根の下面は、前記固定部材を介して前記下軸組部の前記傾斜軸部材の下端部に固定されていることを特徴とするユニット式建物。
【請求項４】
請求項１～３のいずれか一項に記載のユニット式建物において、
前記台形ユニットが前記傾斜屋根の棟方向に複数隣接して設けられており、
複数の前記台形ユニットのうち、少なくとも一つの前記台形ユニット上に位置する傾斜屋根に、開口部が前記台形ユニットの傾斜面に対向して形成されていることを特徴とするユニット式建物。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、大型の傾斜屋根を有する２階建てのユニット式建物に関する。
【背景技術】
【０００２】
箱形に形成された複数の建物ユニットを組み合わせたユニット式建物の一例として特許文献１に記載のものが知られている。
このユニット式建物は、上部に傾斜面を含んで箱形に形成された台形ユニットがユニット式建物の上部に配置され、面状に形成された屋根パネルが、前記台形ユニットの傾斜面に沿って取り付けられてなるものである。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開平０９－１２５５８５号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
ところで、前記従来のユニット式建物において、例えば、１階部分の外周側に設けられる建物ユニットが２階部分に設けられる建物ユニットより外側に位置する場合に、前記屋根パネルで構成される屋根を軒先側に延長して大型の屋根とし、この大型の屋根によって、１階部分の外側に位置する建物ユニットの上を覆うことが考えられる。
しかし、この場合、屋根が軒先側に延長されて大型となるので、この大型の屋根の延長した部分（先端部分）を確実に支持するとともに補強する必要があるが、前記従来の建物ユニットではこれを実現することは困難であった。
また、大型でかつ片流れの屋根の場合、屋根の上端部を確実に支持するとともに補強する必要があるが、前記従来の建物ユニットではこれを実現することは困難であった。
このように、従来のユニット式建物では、片流れの屋根も含めて、大型の傾斜屋根を形成するのは困難であった。
【０００５】

本発明は上記事情に鑑みてなされたもので、片流れの屋根も含めて、大型の傾斜屋根を容易に形成できるユニット式建物を提供することを課題としている。

【課題を解決するための手段】

【０００６】

上記課題を解決するために、請求項１に記載の発明は、例えば図１～図５に示すように、大型の傾斜屋根１を有するユニット式建物であって、

上階部分（１階部分）に、上面に傾斜面３ａを有する台形箱状の台形ユニット３が前記傾斜面３ａを外側に向けて設けられるとともに、矩形箱状の標準ユニット２が前記台形ユニット３に後方から隣接して設けられ、

下階部分（２階部分）に設けられている標準ユニット２のうち外側に位置する標準ユニット２が前記台形ユニット３より外側に位置するようにして設けられ、

前記傾斜屋根１が、上階部分に設けられた前記標準ユニット２上から下階部分の外側に設けられた前記標準ユニット２上にかけて、前記台形ユニット３の傾斜面３ａに沿って設けられ、

前記傾斜屋根１の上端部が上階部分に設けられた前記標準ユニット２上に軸組みすることによって形成された上軸組部５によって支持され、

前記傾斜屋根１の下端部が下階部分の外側に設けられた前記標準ユニット２上に軸組みすることによって形成された下軸組部６によって支持されており、

前記上軸組部５および下軸組部６は、それぞれ前記傾斜屋根１の傾斜方向と平行に設けられて、当該傾斜屋根１を下方から支持する傾斜軸部材５ａ，６ａと、この傾斜軸部材５ａ，６ａの上端部に連結された第１鉛直軸部材５ｂ，６ｂとを備え、

前記第１鉛直軸部材５ｂ，６ｂは、その下方に位置する前記標準ユニット２の柱１０の上端部に立設固定されることによって支持されており、

前記上軸組部５の前記傾斜軸部材５ａと前記第１鉛直軸部材５ｂとの連結部どうしは、連結材５ｄによって連結されており、

前記下軸組部６の前記傾斜軸部材６ａの下端部は、その下方に位置する前記標準ユニット２の柱１０の上端部によって支持されていることを特徴とする。

【０００７】

請求項１に記載の発明によれば、上階部分に設けられた標準ユニット２上から下階部分の外側に設けられた標準ユニット２上にかけて、台形ユニット３の傾斜面３ａに沿って設けられた傾斜屋根１の上端部が上階部分に設けられた前記標準ユニット１上に軸組みすることによって形成された上軸組部５によって支持され、前記傾斜屋根１の下端部が下階部分の外側に設けられた前記標準ユニット２上に軸組みすることによって形成された下軸組部６によって支持されているので、傾斜屋根１の上端部と下端部とをそれぞれ上軸組部５と下軸組部６によって確実に支持して補強できる。したがって、片流れの屋根も含めて、大型の傾斜屋根１を容易に形成できる。

【０００９】

また、傾斜屋根１の上端部が上軸組部５の傾斜軸部材５ａによって下方から支持されるとともに、この傾斜軸部材５ａの上端部に連結された第１鉛直軸部材５ｂが、その下方に位置する標準ユニット２によって支持されているので、傾斜屋根１の上端部を確実に支持できる。また、傾斜屋根１の下端部が下軸組部６の傾斜軸部材６ａによって下方から支持されるとともに、この傾斜軸部材６ａの上端部に連結された第１鉛直軸部材６ｂが、その下方に位置する標準ユニット２によって支持されているので、傾斜屋根１の下端部を確実に支持できる。さらに、傾斜屋根１の上端部と下端部との間に位置する部位は台形ユニット３によって支持できる。

したがって、上階部分に設けられた標準ユニット２上から下階部分の外側に設けられた標準ユニット２上にかけて設けられた大型の傾斜屋根１を確実に支持できる。

また、下軸組部６の傾斜軸部材６ａの上端部に連結された第１鉛直軸部材６ｂが、その下方に位置する標準ユニット２によって支持され、傾斜軸部材６ａの下端部が、その下方に位置する標準ユニット２によって支持されているので、傾斜軸部材６ａを安定的に支持

できる、この結果、傾斜屋根１の下端部を安定的に支持できる。

【００１０】

請求項２に記載の発明は、請求項１に記載のユニット式建物において、

前記上軸組部５は、前記傾斜軸部材５ａの下端部に連結された第２鉛直軸部材５ｃを備え、

前記第２鉛直軸部材５ｃが、その下方に位置する前記標準ユニット２によって支持されていることを特徴とする。

【００１１】

請求項２に記載の発明によれば、上軸組部５の傾斜軸部材５ａの上端部に連結された第１鉛直軸部材５ｂが、その下方に位置する標準ユニット２によって支持され、傾斜軸部材５ａの下端部に連結された第２鉛直軸部材５ｃが、その下方に位置する前記標準ユニット２によって支持されているので、傾斜軸部材５ａを安定的に支持でき、この結果、傾斜屋根１の上端部を安定的に支持できる。

【００１２】

請求項３に記載の発明は、請求項１または２に記載のユニット式建物において、

前記下軸組部６の前記傾斜軸部材６ａの下端部は、その下方に位置する前記標準ユニット２の柱１０の上端部に固定部材７を介して固定され、

前記傾斜屋根１の下面は、前記固定部材７を介して前記下軸組部６の前記傾斜軸部材６ａの下端部に固定されていることを特徴とする。

【００１４】

請求項４に記載の発明は、例えば図６および図７に示すように、請求項１～３のいずれか一項に記載のユニット式建物において、

前記台形ユニット３が前記傾斜屋根１の棟方向に複数隣接して設けられており、

複数の前記台形ユニット３・・・のうち、少なくとも一つの前記台形ユニット３上に位置する傾斜屋根１に、開口部８が前記台形ユニット３の傾斜面３ａに対向して形成されていることを特徴とする。

【００１５】

請求項４に記載の発明によれば、少なくとも一つの台形ユニット３上に位置する傾斜屋根１に、開口部８が台形ユニット３の傾斜面３ａに対向して形成されているので、この台形ユニット３をバルコニー等として利用できる。

また、複数の台形ユニット３・・・のうち中央部に位置する台形ユニット３上に位置する傾斜屋根１に、開口部８を当該台形ユニット３の傾斜面３ａに対向して形成することによって、この台形ユニット３を中庭のようなバルコニーとして利用できる。

【発明の効果】

【００１６】

本発明によれば、上階部分に設けられた標準ユニット上から下階部分の外側に設けられた標準ユニット上にかけて、台形ユニットの傾斜面に沿って設けられた傾斜屋根の上端部が上階部分に設けられた前記標準ユニット上に軸組みすることによって形成された上軸組部によって支持され、前記傾斜屋根の下端部が下階部分の外側に設けられた前記標準ユニット上に軸組みすることによって形成された下軸組部によって支持されているので、傾斜屋根の上端部と下端部とをそれぞれ上軸組部と下軸組部によって確実に支持して補強できる。したがって、片流れの屋根も含めて、大型の傾斜屋根を容易に形成できる。

【図面の簡単な説明】

【００１７】

【図１】本発明に係るユニット式建物の一例を示すもので、その骨組の概略構造を示す側面図である。

【図２】同、骨組の概略構成を示す斜視図である。

【図３】同、屋根を取り付ける前の骨組の概略構造を示す斜視図である。

【図４】同、標準ユニットの骨組を示す斜視図である。

【図５】同、台形ユニットの骨組を示す斜視図である。

【図６】本発明に係るユニット式建物の他の例を示すもので、その骨組の概略構造を示す側面図である。
【図７】同、骨組の概略構成を示す斜視図である。
【発明を実施するための形態】
【００１８】
以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。
（第１の実施の形態）
図１は本発明に係るユニット式建物の一例を示すもので、その骨組の概略構造を示す側面図、図２は骨組の概略構成を示す斜視図、図３は屋根を取り付ける前の骨組の概略構造を示す斜視図である。
本実施の形態に係るユニット式建物は、大型の傾斜屋根１を備えた２階建ての住宅である。
１階部分には、矩形箱状に形成され、上面が水平面となっている標準ユニット２が平面視においてその長辺方向に３個、短辺方向に３個、合計９個互いに隣接して設けられ、隣接する標準ユニット２，２どうしは連結されている。
【００１９】
標準ユニット２は、例えば図４に示すように、４本の柱１０と、これらの柱１０の上端間どうしを結合する４本の天井梁１１と、柱１０の下端間どうしを結合する４本の床梁１２とを備えている。
４本の天井梁１１は、２本の長辺天井梁１１ａおよび長辺天井梁１１ａより短い２本の短辺天井梁１１ｂによって構成されている。４本の床梁１２は２本の長辺床梁１２ａおよび長辺床梁１２ａより短い２本の短辺床梁１２ｂによって構成されている。なお、柱１０は正方形筒状に形成されており、天井梁１１と床梁１２は、それぞれ断面コ字型に形成されている。
【００２０】
２本の長辺天井梁１１ａ，１１ａには、複数の天井小梁１３が架設されており、該天井小梁１３は長辺天井梁１１ａの長手方向に所定間隔で設けられている。これら天井小梁１３の下面には天井板１４が固定されている。
２本の長辺床梁１２ａ，１２ａには、複数の根太１５が架設されており、該根太１５は長辺床梁１２ａの長手方向に所定間隔で設けられている。これら根太１５の上面には床板１６が固定されている。
なお、柱１０の上端部と天井梁１１の端部とは柱頭接合部材１７によって接合され、柱１０の下端部と床梁１２の端部とは柱脚接合部材１８によって接合されている。
【００２１】
図１～図３に示すように、２階部分には、３個の前記標準ユニット２が平面視においてその長辺方向に隣接して設けられており、これら３個の標準ユニット２は傾斜屋根１の上端部（棟側）において、１階の３個の標準ユニット２に積み重ねられて連結されている。
また、２階部分には、上面に傾斜面３ａを有する台形ユニット３が前記傾斜面３ａを外側に向けて設けられている。台形ユニット３は平面視においてその長辺方向に３個隣接して設けられており、隣接する台形ユニット３，３どうしは連結されている。
さらに、３個の台形ユニット３は、１階に設けられた中央の列に位置する３個の標準ユニット２に積み重ねられて連結されている。これら台形ユニット３には、２階部分に設けられた標準ユニット２が後方から隣接しており、隣接する台形ユニット３と標準ユニット２とは連結されている。
また、１階部分に設けられている９個の標準ユニット２・・・のうち外側に位置する３個の標準ユニット２・・・は２階部分に設けられている３個の台形ユニット３・・・より外側に位置するようにして設けられている。
【００２２】
前記台形ユニット３は、例えば図５に示すように、２本の柱１０と、柱１０より短い２本の柱１０ａと、柱１０，１０の上端間どうしを結合する長辺天井梁１１ａと、柱１０ａ

，１０ａの上端間どうしを結合する長辺天井梁１１ａと、柱１０と柱１０ａの上端間どうしを結合する２本の短辺天井梁１１ｂと、柱１０，１０の下端間どうしおよび柱１０ａ，１０ａの下端間どうしを結合する２本の長辺床梁１２ａと、柱１０，１０ａの下端間どうしを結合する２本の短辺床梁１２ｂとによって構成されている。短辺天井梁１１ｂは前記傾斜面３ａと同方向に傾斜している。

なお、柱１０，１０ａは正方形筒状に形成されており、天井梁１１ａ，１１ｂと床梁１２ａ，１２ｂは、それぞれ断面コ字型に形成されている。

【００２３】

２本の長辺天井梁１１ａ，１１ａには、複数の天井小梁１３が斜めに架設されており、該天井小梁１３は長辺天井梁１１ａの長手方向に所定間隔で設けられている。これら天井小梁１３の下面には図しない天井板が固定されている。

２本の長辺床梁１２ａ，１２ａには、複数の根太１５が架設されており、該根太１５は長辺床梁１２ａの長手方向に所定間隔で設けられている。これら根太１５の上面には図しない床板が固定されている。

なお、柱１０，１０ａの上端部と、長辺天井梁１１ａおよび短辺天井梁１１ｂの端部とは柱頭接合部材１７によって接合され、柱１０の下端部と長辺床梁１２ａおよび短辺床梁１２ｂの端部とは柱脚接合部材１８によって接合されている。

【００２４】

図１および図２に示すように、前記傾斜屋根１は片流れの屋根であり、例えば屋根パネルによって構成されている。この屋根パネルは、屋根面を形成する屋根面材の裏側周縁部に四角枠状のフレームを取り付けて剛性を確保したものである。

このような傾斜屋根１は、２階部分に設けられた３個の標準ユニット２上から１階部分の外側に設けられた３個の標準ユニット２上にかけて、台形ユニット３の傾斜面３ａに沿って設けられている。

傾斜屋根１の上端部は２階部分に設けられた標準ユニット２上に現場で軸組みすることによって形成された上軸組部５によって支持されており、下端部は１階部分の外側に設けられた標準ユニット２上に現場で軸組みすることによって形成された下軸組部６によって支持されている。

【００２５】

上軸組部５は、傾斜屋根１の傾斜方向と平行に設けられて、当該傾斜屋根１を下方から支持する傾斜軸部材５ａと、この傾斜軸部材５ａの上端部に連結された第１鉛直軸部材５ｂと、傾斜軸部材５ａの下端部に連結された第２鉛直軸部材５ｃを備えている。この第２鉛直軸部材５ｃは第１鉛直軸部材５ｂより短くなっている。

第１鉛直軸部材５ｂは、２階の標準ユニット２の後面側の柱１０の上端部（柱頭接合部材１７）に立設固定されており、第２鉛直軸部材５ｃは２階の標準ユニット２の前面側の柱１０の上端部（柱頭接合部材１７）に立設固定されている。これによって、第１鉛直軸部材５ｂおよび第２鉛直軸部材５ｃは、その下方に位置する標準ユニット２によって支持されている。

また、第１鉛直軸部材５ｂの上端部と、第２鉛直軸部材５ｃの上端部とにそれぞれ傾斜屋根１の下面が固定部材７を介して固定されている。

さらに、図２に示すように、傾斜軸部材５ａと第１鉛直軸部材５ｂとの連結部どうしは、連結材５ｄによって連結されている。

このようにして、傾斜屋根１の上端部が２階部分に設けられた前記標準ユニット２上に軸組みすることによって形成された上軸組部５によって支持されている。

【００２６】

下軸組部６は、図１および図２に示すように、傾斜屋根１の傾斜方向と平行に設けられて、当該傾斜屋根１を下方から支持する傾斜軸部材６ａと、この傾斜軸部材６ａの上端部に連結された第１鉛直軸部材６ｂとを備えている。第１鉛直軸部材６ｂの長さは、前記台形ユニット３の柱１０ａとほぼ等しくなっている。

第１鉛直軸部材６ｂは、１階の外側の標準ユニット２の後面側の柱１０の上端部（柱頭

接合部材１７）に立設固定されており、これによって、第１鉛直軸部材６ｂは、その下方に位置する標準ユニット２によって支持されている。

傾斜軸部材６ａの下端部は、１階の外側の標準ユニット２の前面側の柱１０の上端部（柱頭接合部材１７）に固定部材７を介して固定されている。これによって、傾斜軸部材６ａの下端部は、その下方に位置する標準ユニット２によって支持されている

また、第１鉛直軸部材６ｂの上端部と傾斜軸部材６ａの下端部とに、それぞれ傾斜屋根１の下面が固定部材７を介して固定されている。

このようにして、傾斜屋根１の下端部が１階部分の外側に設けられた標準ユニット２上に軸組みすることによって形成された下軸組部６によって支持されている。

【００２７】

本実施の形態によれば、２階部分に設けられた標準ユニット２上から１階部分の外側に設けられた標準ユニット２上にかけて、台形ユニット３の傾斜面３ａに沿って設けられた傾斜屋根１の上端部が２階部分に設けられた標準ユニット２上に軸組みすることによって形成された上軸組部５によって支持され、傾斜屋根１の下端部が１階部分の外側に設けられた標準ユニット２上に軸組みすることによって形成された下軸組部６によって支持されているので、傾斜屋根１の上端部と下端部とをそれぞれ上軸組部５と下軸組部６によって確実に支持して補強できる。したがって、片流れの屋根も含めて、大型の傾斜屋根１を容易に形成できる。

また、傾斜屋根１の上端部が上軸組部５の傾斜軸部材５ａによって下方から支持されるとともに、この傾斜軸部材５ａの上端部に連結された第１鉛直軸部材５ｂが、その下方に位置する標準ユニット２によって支持されているので、傾斜屋根１の上端部を確実に支持できる。また、傾斜屋根１の下端部が下軸組部６の傾斜軸部材６ａによって下方から支持されるとともに、この傾斜軸部材６ａの上端部に連結された第１鉛直軸部材６ｂが、その下方に位置する標準ユニット２によって支持されているので、傾斜屋根１の下端部を確実に支持できる。さらに、傾斜屋根１の上端部と下端部との間に位置する部位は台形ユニット３によって支持できる。

したがって、２階部分に設けられた標準ユニット２上から１階部分の外側に設けられた標準ユニット２上にかけて設けられた大型の傾斜屋根１を確実に支持できる。

【００２８】

さらに、上軸組部５の傾斜軸部材５ａの上端部に連結された第１鉛直軸部材５ｂが、その下方に位置する標準ユニット２によって支持され、傾斜軸部材５ａの下端部に連結された第２鉛直軸部材５ｃが、その下方に位置する標準ユニット２によって支持されているので、傾斜軸部材５ａを安定的に支持でき、この結果、傾斜屋根１の上端部を安定的に支持できる。

また、下軸組部６の傾斜軸部材６ａの上端部に連結された第１鉛直軸部材６ｂが、その下方に位置する標準ユニット２によって支持され、傾斜軸部材６ａの下端部が、その下方に位置する標準ユニット２によって支持されているので、傾斜軸部材６ａを安定的に支持でき、この結果、傾斜屋根１の下端部を安定的に支持できる。

【００２９】

（第２の実施の形態）

図６および図７は本発明に係るユニット式建物の一例を示すもので、図６はその骨組の概略構造を示す側断面図、図７は骨組の概略構成を示す斜視図である。

これらの図に示すユニット式建物が、前記第１の実施の形態のユニット式建物と異なる点は、台形ユニット３上に位置する傾斜屋根１に、開口部を形成した点であるので、以下ではこの点について説明し、第１の実施の形態と同一構成部分には同一符号を付して、その説明を省略ないし簡略化する。

【００３０】

図６および図７に示すように、２階部分において傾斜屋根１の棟方向に３個隣接して設けられた台形ユニット３・・・のうち、中央部に位置する台形ユニット３上に位置する傾斜屋根１に、矩形状の開口部８が台形ユニット３の傾斜面３ａに対向して形成されている

。
この台形ユニット３は、図５に示す台形ユニット３から天井小梁１３を取り外した構成となっている。したがって、この台形ユニット３の上面は外側に向けて開放されている。また、この台形ユニット３の内側面には、図６に示すように、外装材２０が工場等で予め取り付けられているとともに、底面には防水性能を有する床材２１が工場等で予め取り付けられている。

【００３１】

本実施の形態によれば、第１の実施の形態と同様の効果に加えて、以下のような効果を得ることができる。

２階の中央部に位置する台形ユニット３上に位置する傾斜屋根１に、開口部８が台形ユニット３の傾斜面３ａに対向して形成されているので、この台形ユニット３を中庭のようなバルコニー２２として利用できる。

【００３２】

なお、上記二つの実施の形態では、傾斜屋根１を片流れの大家屋根としたが、本発明では、例えば図１において二点鎖線で示すように、傾斜屋根１の棟部に他方に傾斜する小さな屋根を有する招き屋根としてもよい。この場合、小さな屋根の下方に標準ユニット２を設ければよい。

また、上記二つの実施の形態では、傾斜屋根１を片流れの大家屋根としたが、本発明では、傾斜屋根を切り妻屋根としてもよい。

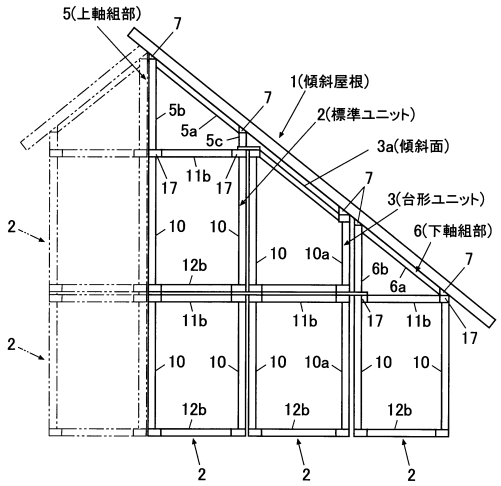
この場合、図１において、傾斜屋根１の上端部を通る仮想鉛直線に対して対称的に傾斜屋根１、標準ユニット２、台形ユニット３を設ければよい。

【符号の説明】

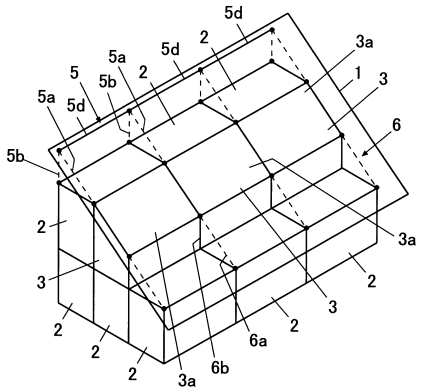
【００３３】

１　傾斜屋根
２　標準ユニット
３　台形ユニット
３ａ　傾斜面
５　上軸組部
５ａ　傾斜軸部材
５ｂ　第１鉛直軸部材
５ｃ　第２鉛直軸部材
６　下軸組部
６ａ　傾斜軸部材
６ｂ　第１鉛直軸部材

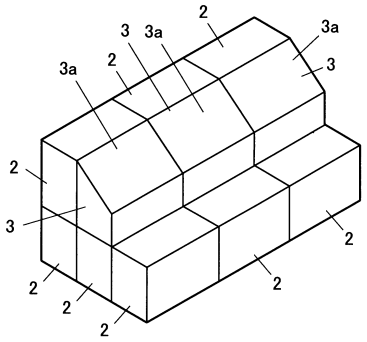
【図１】


5(上軸組部)
7
1(傾斜屋根)
2(標準ユニット)
3a(傾斜面)
3(台形ユニット)
6(下軸組部)
5b
5a
5c
11b
17
10
10a
12b
6b
6a
2

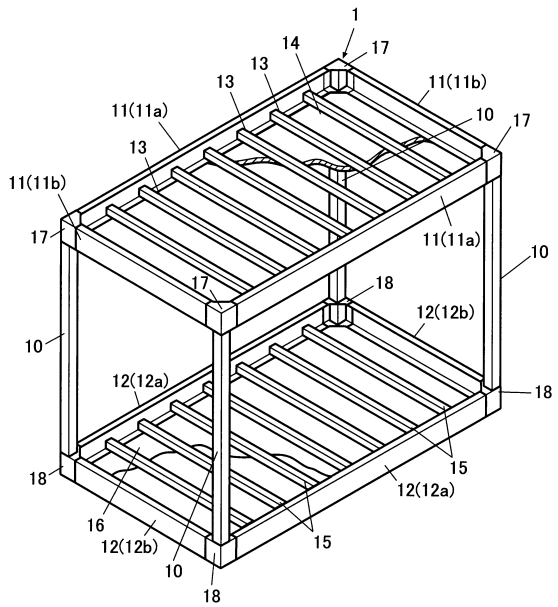
【図２】


5d
5a
5b
5
2
3a
1
3
6
2
6a
6b

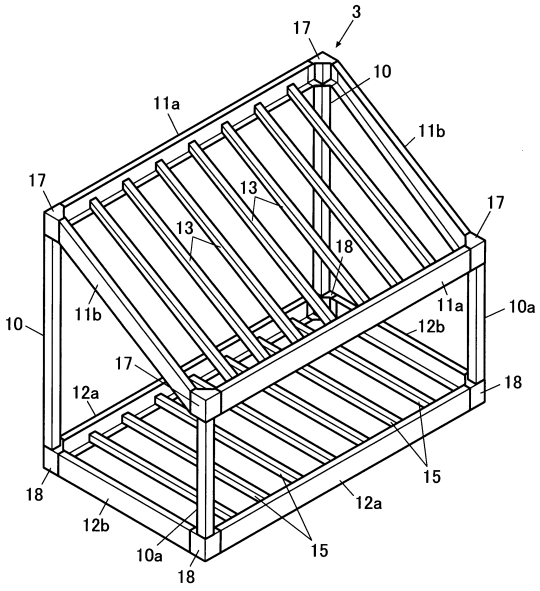
【図３】


2
3
3a
2

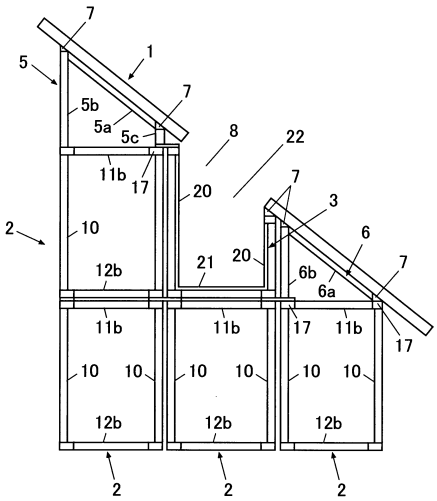
【図４】


1
14
17
13
11(11b)
11(11a)
10
18
12(12b)
12(12a)
15
16

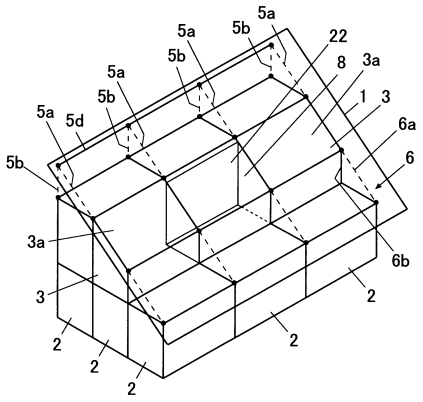
【図５】


3
17
10
11a
11b
13
18
12b
10a
12a
15

【図６】


7
1
5
5b
5a
5c
7
8
22
11b
17
20
7
3
2
10
6
21
20
12b
6b
7
6a
11b
11b
17
11b
17
10
10
10
10
10
10
12b
12b
12b
2
2
2

【図７】


5a
5b
22
5a
5b
8
3a
5a
5b
1
3
5a
5d
6a
6
5b
6b
3a
3
2
2
2
2
2

フロントページの続き

(56)参考文献 特開平０８－１０９６８１（ＪＰ，Ａ）
特開平１０－０３７３１０（ＪＰ，Ａ）
特開２００４－２１８２２９（ＪＰ，Ａ）
特開平１１－１４８１７８（ＪＰ，Ａ）
特開平０５－０２５８７８（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｅ０４Ｂ 1／３４８